

目薬の使用状況調査

目的

点眼薬の使用状況が患者様により様々な為、今後の服薬指導内容の改善等を行い、よりの確に指導できるようにする。

方法

2月に来局された、カリーユニ点眼薬のみの処方患者様無作為100名を対象に薬剤師が投薬時に聞き取り調査を行う。項目は以下の3問です

| | | |
|-------------|----|-----|
| 点眼出来ている | はい | いいえ |
| 開封後1カ月に使用する | はい | いいえ |
| 残っている目薬は捨てる | はい | いいえ |

結果

| | | | |
|-------------|----|-----|-----------------|
| | はい | いいえ | |
| 点眼出来ている | 29 | 71 | |
| 開封後1カ月に使用する | 93 | 7 | |
| 残っている目薬は捨てる | 0 | 7 | (1カ月以内に使い切る 93) |

考察

質問事項1「点眼できている」について

- ・できている患者は3割に満たない。

点眼率が極めて低い理由は1日5回点眼すべきところを4回しかできていない、4回点眼すべきところを3回しか点眼できていない患者様が多かった。

・外出時に点眼薬を持参出来なくてとか、昼食時の服用薬が無く、点眼をし忘れる患者様もいた。

・白内障治療薬のカリーユニについて患者のコンプライアンス意識が低い。調査中における患者の発言から緑内障治療薬と白内障治療薬とではコンプライアンスに差があり、白内障の場合、最後は手術があるといった、重大事にはいたらないという安心感が見受けられた。

・点眼はしているが、「目に見えた症状の改善」が実感出来ない為、点眼回数が指示通り出来ていないと考えられる。

質問事項2「開封後1カ月以内に使用する」について

- ・93%が1カ月以内に使用している。これは処方量と用法（両眼、1日4～5回、

2～3瓶) から当然の結果と思われる。

- ・調査中に家族間共用、時には友人に譲渡している患者様がいました。

質問事項3「残っている目薬は捨てる」

- ・開封後1カ月以上たっても最後まで使い切る患者様でした。ご高齢の患者様は「もったいない」と考えていると推測される。

以上のことから、

- ・点眼する意義についての説明を、患者様に、継続的に啓蒙し続け、手術しないで、生活できるように服薬指導する。
- ・服薬指導で「開封後1ヶ月以内に使用すること」を必ずしも行ってはいないので、これをもっと徹底することにより更に比率を高めることができると思われ、さらに、衛生面から、開封後1カ月以上経った点眼液は捨てるよう徹底する必要がある。

今後は、点眼し忘れる時間帯、1日に点眼出来る可能な回数について、継続的に調査を行いたい。

更に、緑内障治療点眼薬の点眼状況調査

緑内障は失明の危険がある疾病であるという認識が患者様にあるので、白内障治療点眼薬との比較という点からも、同様の調査を実施することも興味深い。

また、緑内障という疾病の認知度を聞くことで、今後の服薬指導の一助としたい。

平成23年5月12日
平成調剤薬局 鏡島店